

過敏性腸症候群

とは潰瘍や炎症、癌などの器質的な疾患（形ある疾患）がないにも関わらず、

下痢・便秘・腹痛・腹部膨満感などの腹部不定症状が持続する疾患です。

なお、生命にかかわる疾患ではありませんが腹部不定症状により生活の質を落としかねない場合は、治療対象とすべき場合がしばしばあります。

こんな**症状**があります

日本人の10～15%にみられる疾患で、20～40歳代に多いとされていますが、中高年にもしばしばみられます。

①下痢型

男性に多い傾向



②便秘型

女性に多い傾向



③下痢便秘交代型

④分類不能型

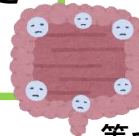
特徴的なことは当院外科部長の出口先生の治療経験においても、約半数の人が向精神薬、つまり精神安定剤を服用しているということです。したがって、過敏性腸症候群とはその約半数の事例が自律神経失調症や神経症、心身症の一部分症であると考えられます。

こんな**原因**があります

①消化管の蠕動運動の不安定



②腸液の分泌の不安定



③生活習慣の不均一性



④ストレス



等が挙げられていますが、いまだに解明されていません。

治療としては

ストレスと生活習慣の改善

過敏性腸症候群にのみ使用する整腸剤がありますが、それとともに、便秘に対する対照的な治療、さらに精神科的治療が重要になる事例が多くあります。

薬物療法としては消化管蠕動促進剤、緩下剤、鎮痙剤、止痢剤、精神安定剤などの

2,3種類の組み合わせ処方で見つた処方の調整をすすめていくというのが一般的治療となります。

過敏性腸症候群の診断・治療にあたっては腫瘍や炎症性腸炎の否定診断が前提となります。

よって、大腸内視鏡やCTにより消化管内外の腹部疾患のないことを確認しておくことが重要です。

気になる症状がある方は、一度外来にご相談ください。

泉北陣内病院